02 超高齢社会で増える歯科需要 ～歯科医師の新たな役割とは～

超高齢社会と歯科ニーズ

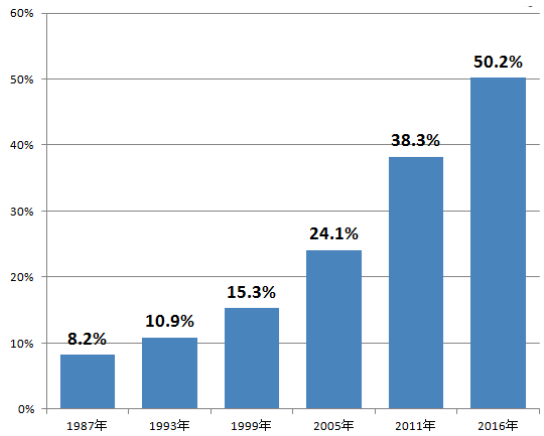
日本は高齢化率※が2007年に21.5%となり、超高齢社会に入りました。

■ 2019年度の平均寿命と健康寿命

	平均寿命	健康寿命（試算）	差
男性	81.41	72.68	8.73
女性	87.45	75.38	12.07

- 平均寿命が延びることで介護や医療によるサポートやケアが必要となる期間も延びていきます。
- 歯科に関しては、高齢者で多くの歯が残っている人が増えてきたのは喜ばしいことですが、その歯をケアし続けるという新たな必要性も生まれています。
- 高齢で体の自由が利かない、寝たきりになる、などの理由で口腔の自己管理ができなくなる方が増え、過去の虫歯治療を中心とする歯科医療は、予防・口腔管理を中心とする歯科医療へと変化しつつあります。

■ 「8020 達成者」推定比率推移

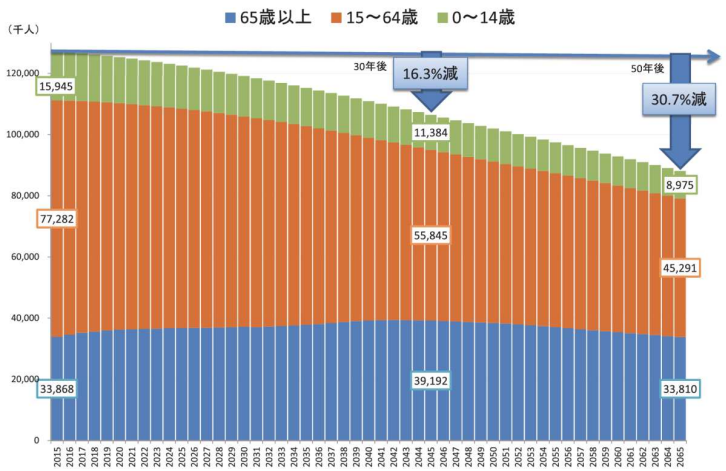


歯科疾患実態調査（厚生労働省）より日本歯科総合研究機構作成

※高齢化率：総人口に対して65歳以上の高齢者人口が占める割合

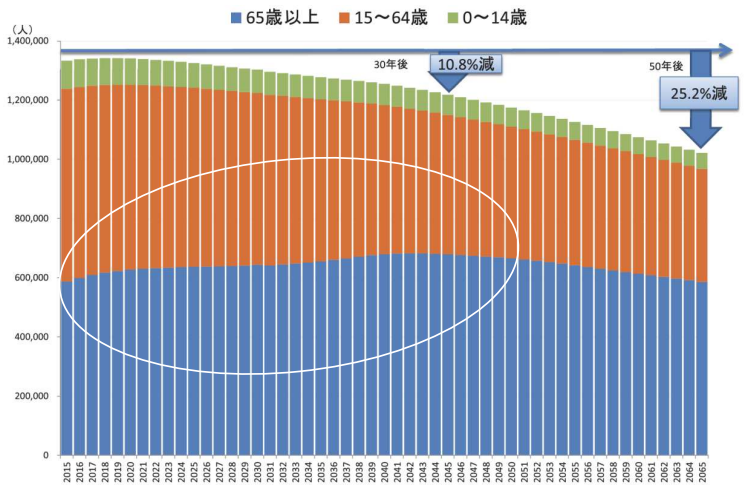
人口が減少しても高齢者の歯科患者数は増加が続く

■今後50 年後までの人口推計



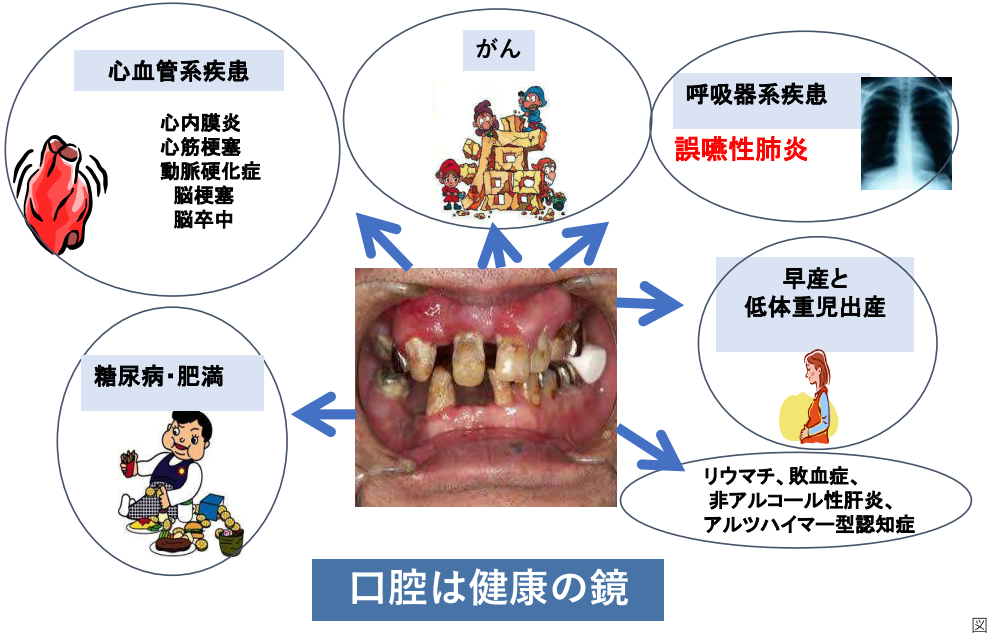
国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29 年推計）」より日本歯科総合研究機構作成

■今後50 年後までの歯科診療所患者数推計



国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29 年推計）」および厚生労働省「患者調査」より日本歯科総合研究機構作成

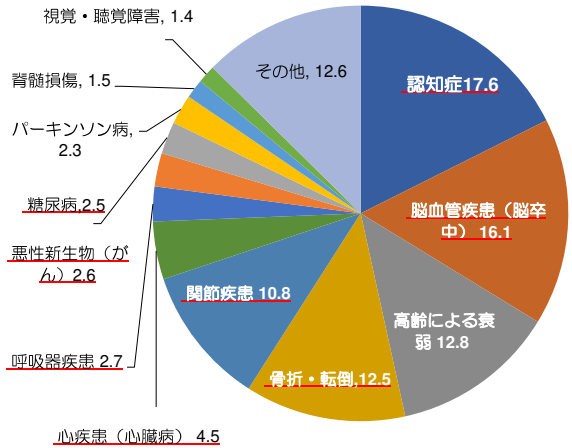
歯周病などの口腔疾患は全身の健康に影響を及ぼす。
歯科医師は口腔の健康の維持・管理で国民の健康長寿に貢献



図はインターネット掲載画像より引用

要介護状態になる原因の多くは口腔の健康と関連している

■介護が必要となった原因



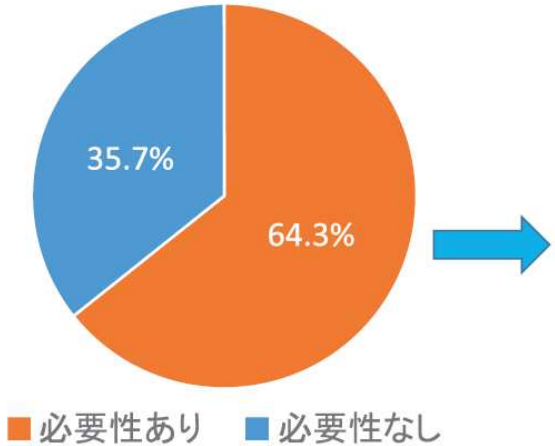
2019年国民生活基礎調査

歯周病は、認知症（特にアルツハイマー型）・脳卒中・心疾患・糖尿病・肺炎（呼吸器疾患）など、多くの疾患に係ることが分かっています。

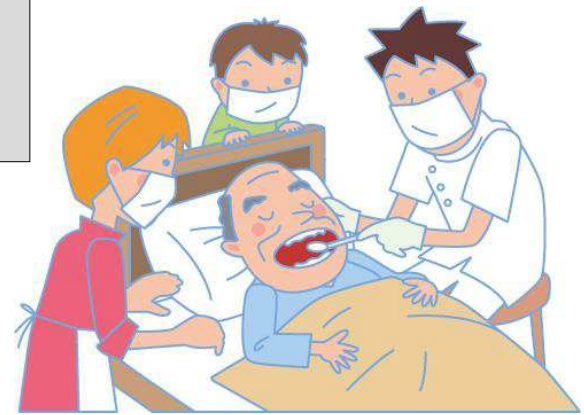
また、自身の歯を失い義歯などの治療を受けないと、認知症や、転倒・骨折などのリスクを高めることから、**口腔疾患が要介護の原因の多くと係わっていることが分かります。**

歯科医療を受けられていない高齢者も多い

■要介護高齢者の口腔状態と歯科治療の必要性



歯科治療が必要な
64.3%のうち
実際に歯科治療を受けた
要介護高齢者は
2.4%である

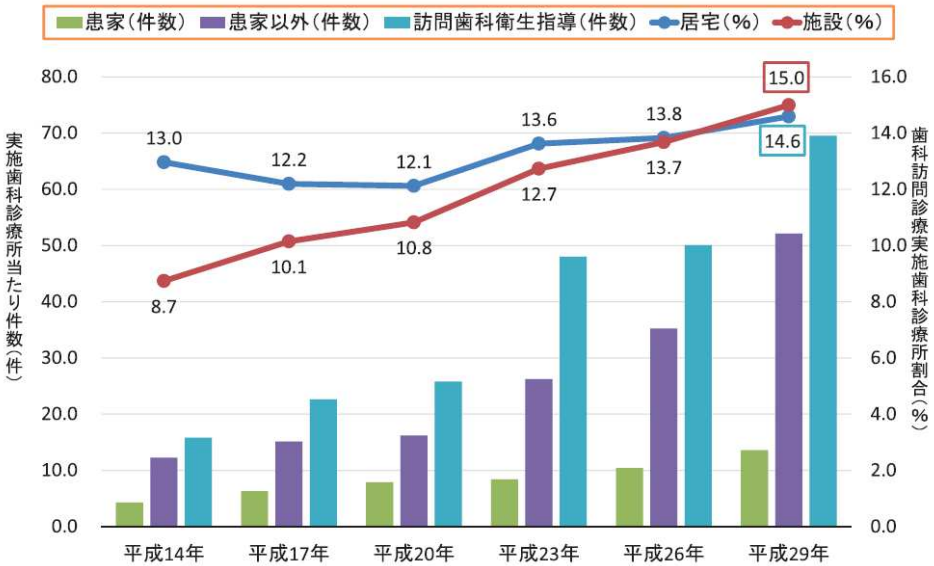


対象者：要介護高齢者290名（平均年齢　86.9歳±6.6歳）
※在宅・グループホーム・通所・病棟・老健・特養など

令和元年度日本歯科医学会 プロジェクト研究「フレイルおよび認知症と口腔健康の関係に焦点化した人生100年時代を見据えた歯科治療指針作成に関する研究」中間報告書より引用

いま、歯科に望まれているニーズに応えて「歯科訪問診療」をするためには、歯科医師が足りない

■居宅・施設別の実施歯科診療所割合と実施歯科診療所あたりの実施件数経年推移



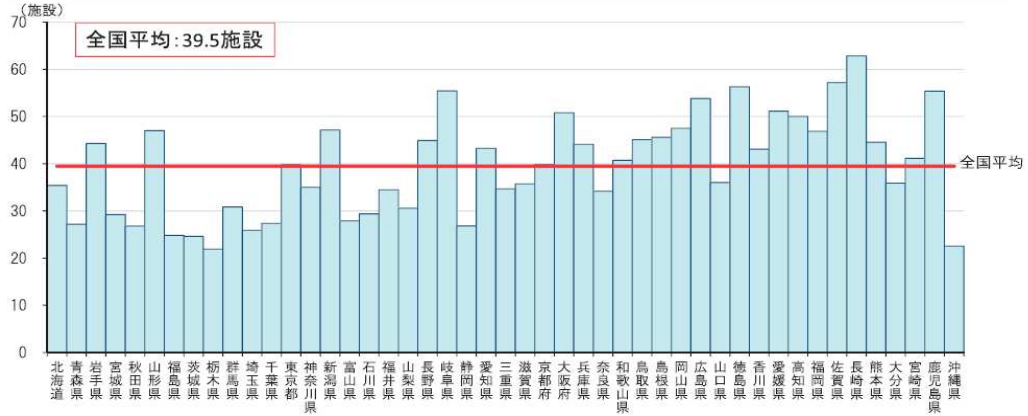
日本歯科総合研究機構作成

要介護者に対して歯科訪問診療を実施しているのは、全国平均で高齢者10万人あたり約40施設

■都道府県別の歯科訪問診療実施医療機関数

○　高齢者人口（65歳以上人口）10万人あたりの歯科訪問診療を実施している医療機関数は、全国平均で約40施設であった。

○　最も多い長崎県で約63施設、最も少ない栃木県では約22施設と都道府県によってばらつきがみられた。



出典：NDBデータ（平成28年5月診療分）と総務省人口推計を基に保険局医療課で作成

厚生労働省「中央社会保険医療協議会総会（第369回）」資料より引用